

「特別活動」（ホームルーム活動）学習指導案

- 1 日時・時限 平成〇〇年〇月〇〇日 〇時限（〇時〇〇分～〇時〇〇分）
- 2 学年組・人数 〇〇HR 〇〇名（男子〇〇名、女子〇〇名）（使用教室 〇〇HR教室）
- 3 生徒観 生徒の多くは携帯電話を所持しており、そのほとんどがスマートフォンである。スマートフォンの使用にあたっては、自分で使用する時間をコントロールしたり、インターネット機能の特性を理解して自分の個人情報が流出しないよう注意し、他人に迷惑をかけるような情報を流通させない、といった情報モラルが備わった生徒もいる。しかし一方で、スマートフォンの使用が長時間にわたり「ネット依存」の状態に陥っていたり、危険性に気づかず個人情報を流出するとともに、他人に迷惑をかける情報を流通させている生徒もおり、その結果生徒指導上の問題がホームルーム内で起こったりもしている。
- 4 教材名 パワーポイント教材「熊子の憂鬱」、ワークシート
- 5 大単元名 (2)適応と成長及び健康安全
- 6 大単元の目標 生徒一人一人が人間としての在り方生き方について幅広く探究し、心身の健康の保持増進に努め、豊かな人間性や個性の育成を図るとともに、社会の成員として必要とされる資質や能力を培っていく。
- 7 大単元の学習計画
 ア 青年期の悩みや課題とその解決…………… 2時間
 イ 自己及び他者の個性の理解と尊重…………… 2時間
 ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任…………… 2時間
 エ 男女相互の理解と協力…………… 1時間
 オ コミュニケーション能力の育成と人間関係…………… 1時間
 ……
 …… (省略) ……
 ケ 生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立…………… 1時間
 本時の位置付け（1時間／13時間）
- 8 本時の小単元名 オ コミュニケーション能力の育成と人間関係
- 9 小単元の目標 情報化の進展など社会の急速な変化の中で、青少年の人間関係の希薄さや他人に共感して思いやる心の弱さなどが指摘されている。それがいじめなどの問題行動や不登校などの一つの要因になっていることに留意し、人間関係を形成する力や自己表現力、他者への思いやり、正義感、連帯感や協力心などをはぐくむ。
- 10 本時の主題 「ネットいじめに負けないで」
- 11 本時の目標 スマートフォンのアプリ「LINE」の使用によって生じた「ネットいじめ」の事例を通して、インターネットを用いたコミュニケーションの限界を考え、対面によるコミュニケーションの重要性を自覚する。
- 12 単元の指導計画

	学習活動・学習内容	学習活動に即した具体的評価規準
第1時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○アイスブレイクのために、インターネット上の情報の拡散を体感する活動を行い、個人情報や他人に迷惑をかける情報の拡散がいかに重大なことかを理解する。 ○パワーポイント教材「熊子の憂鬱」を見る。 ○「熊子の憂鬱」を見て考えたことを、ワークシートに記入し、同じ班の班員に自分の考えを紹介する。 ○インターネットによるコミュニケーションの限界について理解する。 ○インターネットではない、対面によるコミュニケーションの大切さと、アイメッセージを用いたコミュニケーションの重要性を理解する。 ○アイメッセージで文章を書いてみることで、改めて対面によるコミュニケーションの大切さを理解する。 ○インターネットを用いたコミュニケーションの限界と、対面によるコミュニケーションの重要性を再確認する。 ○ワークシートを回収する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スマートフォンのアプリ「LINE」の使用によって生じた「ネットいじめ」の事例を通して、インターネットを用いたコミュニケーションの限界を考え、対面によるコミュニケーションの重要性を自覚している。

13 本時の学習展開

	学習内容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等
導入	○アイスブレイクのために、情報の拡散を体感する活動を行い、個人情報や他人に迷惑をかける情報の拡散が、いかに重大なことかを理解する。	○全員起立する。紙を渡された生徒は、その紙を半分に切って、その紙を他の人に渡した後、着席する。紙を受け取った生徒は、さらにその紙を半分に切り、まだ起立している他の人に渡して、着席する。紙を渡す人がいなくなるまで行う。	○活動が終わった後、この活動がインターネット上の情報の拡散を体感するためのものだったことを説明し、①インターネット上の情報が大変な早さで拡散すること、②情報が個人情報や他人に迷惑をかける情報であった場合重大な事態になることを、生徒に気づかせる。	
展開	<p>[パワーポイント教材]「熊子の憂鬱」</p> <p>クラス替えで仲のいい友達と離れてしまった熊子は、ホームルームで孤立していた。そんなとき、同じホームルームのウサ子が熊子に「LINE」仲間にならないかと、声をかけてきた。熊子はウサ子と「LINE」でやりとりするようになる。ところが、ウサ子が「LINE」上にチェリ子の悪口を書き、熊子に同意を求めてきた。チェリ子の悪口を書きたくない熊子は、ウサ子の書き込みに対して反応しなかった。これに腹を立てたウサ子は、「LINE」仲間の中で熊子の悪口を書き始め、熊子が「ネットいじめ」のターゲットになってしまう。そして熊子は、「LINE残し」にあう。思い悩んだ熊子は引きこもるようになり、自分の悩みを聞いてくれそうな異性を「LINE」上に探し始める。これに应答したのがチャラ男。熊子はチャラ男と実際に会って親密な関係となり、裸の写真をチャラ男に撮らせてしまう。チャラ男は、熊子の裸の写真をインターネット上にのせ、これを見つけたウサ子が写真を「LINE」上に掲載、熊子の写真は仲間じゅうに知られるところとなり、熊子は学校に戻れなくなってしまった。</p>			
	○パワーポイント教材「熊子の憂鬱」を見る。	○パワーポイント教材「熊子の憂鬱」を見る。	○ナレーションと画面の「LINE」上のやりとりを読みながら、パワーポイントのスライドを映写していく。	
	<p>(1) 熊子の行動で気になったことを、思いつくぶん書き出してみよう。</p> <p>(2) 書き出したことを、同じ班の人たちに紹介しよう。</p>			
	○「熊子の憂鬱」を見て考えたことを、ワークシートに記入し、同じ班の班員に自分の考えを紹介する。	○「熊子の憂鬱」を見て考えたことを、ワークシートに記入し、同じ班の班員に自分の考えを紹介する。	○班の中での紹介が終わったら、「友達がいなかったので「LINE」仲間に加わったこと」「LINE」掲示板で友達を探し、チャラ男と出会ったこと」など、様々な考えが出たことを確認した上で、今後の学習では、熊子が「ウサ子に、チェリ子の悪口を言うのはよくないことだ、と伝えられなかったこと」に着目していくことを説明する。	
<p>(3) 熊子がウサ子に、チェリ子の悪口を言うのはよくない、ということをLINEで提案した場合の文章を、20字以内で書いてみましょう。</p> <p>(4) 班の中で2人ずつペアになり、1人がウサ子になって「チェリ子、調子こいてると思わない？」と言ったら、もう1人はワークシートに書いた20字以内の文章を話してみましょう。その後役割を変えて、同じように会話してみましょう。</p>				
○熊子がウサ子に、チェリ子の悪口を言うのはよくないことを、「LINE」で伝えることを想定して文章を考え、実際にペア同士で会話してみる。	○「LINE」で伝えることを想定して、ワークシートに20字以内で、「熊子がチェリ子に、悪口を言うのはよくないので、やめるように提案する」文章を記入する。 ○班の中で2人ずつペアになり、1人がウサ子になって「チェリ子、調子こいてると思わない？」と言ったら、もう1人は	○「LINE」の特徴である、スタンプという絵を用いて伝える、ということ考えた生徒は、そのスタンプの絵をワークシートに書くよう、補足する。 ○ペアでの会話が終わったら、何人かの生徒に、どのような文章を書いたか、発表させる。 ○生徒が発表した文章のほか、「チェリ子がかわいそうじゃないの!」「みんなLINE仲間だから悪口やめなよ!」といった、代表的な文章を紹介する。		

展 開	<p>○インターネットによるコミュニケーションの限界について理解する。</p>	<p>ワークシートに書いた20字以内の文章を話す。その後役割を変えて、同じように会話する。</p> <p>○説明を聞いて、インターネットによるコミュニケーションの限界について理解する。</p>	<p>○20字以内という字数の文章や、スタンプという絵を用いて、相手のことを思いながら自分の考えを伝える文章を書くのはとても難しいということに気づかせる。</p> <p>○「LINE」の書き込みは、その場その場の思いを、頭の中で考えることなくつぶやいたり、自分の感情を相手に察してもらおうようなスタンプで表現するなど、相手のことを思いながら文章にしていな、ということの説明する。</p> <p>○熊子がウサ子に自分の考えを伝えようとしても、「LINE」に代表されるインターネットによるコミュニケーションでは難しいという、インターネットを用いたコミュニケーションの限界について、まとめる。</p>	
	<p>(5) 「のび太のくせに生意気だぞ！お前は、俺様の言うことが聞けないのか！」(ユウ [You] メッセージ) と「のび太さん、しっかりして！私は、のび太さんに、これから言うことを聞いてほしいの。」(アイ [I] メッセージ) の、どちらの言い方がよいですか？</p>			
	<p>○インターネットではない、対面によるコミュニケーションの大切さと、アイメッセージを用いたコミュニケーションの重要性を理解する。</p>	<p>○インターネットではない、対面によるコミュニケーションの大切さを理解する。</p> <p>○ユウ [You] メッセージとアイ [I] メッセージのどちらが、受ける印象がよいかを考える。</p> <p>○アイメッセージが、相手の受ける印象がよいことに気づく。</p>	<p>○インターネットを用いたコミュニケーションに限界があるのであれば、対面でのコミュニケーションの力を向上させる必要があることを伝える。</p> <p>○ドラえもんの登場人物であるジャイアンが、のび太に向かって言うせりふ(ユウ [You] メッセージ) と、しずかちゃんがのび太に向かって言うせりふ(アイ [I] メッセージ) を紹介し、感じ方の違いを生徒に確認する。</p> <p>○しずかちゃんのせりふである、私を主語にして、私が感じていることを伝えつつ、相手を気づかう言い方のアイメッセージが、相手の受ける印象がよいことに気づかせる。</p>	
<p>(6) しずかちゃん風のアイメッセージで、熊子がウサ子に、チェリ子の悪口を言うのはよくない、ということ提案した場合の文章を書いてみましょう。</p> <p>(7) アイメッセージで書いた文章を、同じ班の人たちに紹介しましょう。そして、班の中で最もしずかちゃん風な文章を話し合いで選び、発表しましょう。</p>				
	<p>○アイメッセージで文章を書いてみることで、改めて対面によるコミュニケーションの大切さを理解する。</p>	<p>○ワークシートに、アイメッセージで、「熊子がウサ子に、チェリ子の悪口を言うのはよくないので、やめるように提案する」文章を記入する。</p> <p>○ワークシートに書いた文章を、同じ班の班員に紹介する。その後、班の中で最もしずかちゃん風なアイメッセージの文章を話し合いで選び、順番に発表する。</p>	<p>○生徒が発表するときには、実物投影機などのICT機器を使って生徒が書いた文章を映写して紹介できるようにするなどの工夫をする。</p>	
まとめ	<p>○インターネットを用いたコミュニケーションの限界と、対面によるコミュニケーションの重</p>	<p>○ワークシートを確認しながら、インターネットを用いたコミュニケーシ</p>	<p>○授業全体の流れを今一度ふり返り、インターネットを用いたコミュニケ</p>	<p>○スマートフォンのアプリ「LINE」の使用によって生じた「ネットいじめ」</p>

ま と め	要性を再確認する。 ○ワークシートを回収する。	ョンの限界と、対面によるコミュニケーションの重要性を再度、理解する。	ーションの限界と、対面によるコミュニケーションの重要性を再確認する。 ○ワークシートを回収する。	の事例を通して、インターネットを用いたコミュニケーションの限界を考え、対面によるコミュニケーションの重要性を自覚している。 →ワークシート
-------------	----------------------------	------------------------------------	---	--

14 本時の評価と手だて スマートフォンのアプリ「LINE」の使用によって生じた「ネットいじめ」の事例を通して、インターネットを用いたコミュニケーションの限界を考え、対面によるコミュニケーションの重要性を自覚しているか。
 →ワークシートの記入状況を確認し、記入がうまくできていない生徒に対しては、個別に面談する。